

拝啓 今年も早や7月末、梅雨が明けて、暑い夏がやってまいりました。お元気で過ごしのことと思います。いつもエンカウンターお読みいただきありがとうございます。スイトピーの後に植えました夕顔が、元気よく軒下まで延びて、大きな葉をつけていますから、花が咲くのを楽しみにしています。

先々月から、相沢良一先生の「黒潮の神学」の紹介をしています。今月号に、相沢先生の「聖書唱歌」の記事を紹介し、「聖書唱歌」の中から12編を載せました。相沢先生の奥様から、「聖書唱歌」の本物（小冊子）をたくさん頂きました。同封いたしますので、歌うか読むかなさってみてください。

さて、今月のエンカウンターで、100号を迎えることができました。読者の皆さま（只今18人）に感謝申し上げます。

この際、エンカウンターの経緯を振り返ってみたいと思います。

平成14年1月に初めてパソコンを買った時、ルツ・エルマー先生（私が1年バイブルクラスで教わったアメリカ人宣教師）から頂いた小冊子をためしに打ってみました。その文章をプリントし、佐藤れんさんにお送りしましたが、その頃南原先生の「よい書物を見出すこと、よい少数の友人をつくるということ、

これは人生における一つの『^{エンカウンター}出会い』であります」という文章を読み、平成15年5月号から「エンカウンター」という題をつけました。

私は、昭和55年に、ビリー・グラハム先生が日本にこられ、後樂園球場で伝道集会があった時行き、非常に大きな感銘を受けました。その後、ビリー・グラハム先生の「きょうのみことば」という霊想書を読んだのを皮切りに、その後霊想書を広く読んでまいりました。（内村先生の「一日一生」は、それまでに何度も読んでおりました。）そこで、エンカウンターでは、読んだ霊想書を中心に紹介しようと決めました。

これまでの取り上げた本を振りかえって見ますと以下のとおりです。

- 平成 14.1～ ルツ・エルマー先生の文集より（1）～（3）
- 平成 14.4～ 小西芳之助「主の御名を呼ぶ」より（1）～（6）
- 平成 14.9～ ビリー・グラハム「今日のみことば」より（1）～（6）
- 平成 15.4～ パウロの手紙より（1）～（5）
- 平成 15.9～ 内村鑑三「一日一生」より（1）～（5）
- 平成 16.2～ 矢内原忠雄「矢内原忠雄全集第17巻」より（1）～（6）
- 平成 16.8～ 南原繁「南原繁著作集第10巻」より（1）～（6）
- 平成 17.2～ 新渡戸稲造「一日一言」より（1）～（6）
- 平成 17.8～ スポルジョン「朝ごとに」より（1）～（6）

平成 18.2～ L・B・カウマン「山頂をめざして」より(1)～(9)
平成 18.11～ 神谷美恵子「神谷美恵子著作集」より(1)～(7)
平成 19.6～ 金田福一「日々の糧 365 日」より(1)～(6)
平成 19 年 12 月 バジレア・シュリンク「愛のまなざし 神の子の日ごとのよ
りどころ」より(1)～(6)
平成 20.6～ バークレー「希望と信頼に生きる」より(1)～(12)
平成 21.6～ ヒルティ「眠られぬ夜のために」より(1)～(12)
平成 22.6～ 相沢良一「黒潮の神学」より(1)～

私は、このような霊想の書は、キリスト教の霊的真理を頂くためには、非常に有効であると思っています。このため、私はいまでも毎朝、聖書と共に、このような日めくりの本(『論語』や仏教の本も含めて)を 10 冊以上、その日のページだけを読むという読書を続けています。これは、皆様にお勧めしたいキリスト教の毎日の学び方だと思います。

読者の皆様が励まして下さったおかげで、いつのまにか、毎月それほど苦労もしないで、ここまでやってこられましたことを感謝申し上げます。

また、100 号からは、読者の一人米倉安雄様から素晴らしいプレゼントを頂きました。それは、エンカウンターを米倉さんの属するキリスト教共励会が管理するウェブ・サイトに掲載して下さるといのです。アドレスは、

<http://encounter.agape.gr.jp/>

です。エンカウンターは、パソコンで誰でも読めるようになったわけです。

また 7 月 24-25 日は、長野県穂高町で開かれた名古屋聖書研究会(鳥居勇夫様主宰)の集まりに行きまいりました。初めて日野原重明先生の講演を聞くために参加しました。24 日の夜は鳥居さんの別荘で、集まりがあり、日野原先生の白寿をお祝いして、弦楽四重奏などの演奏がありました。25 日は、早天祈禱会の後、朝食に招かれ、日野原先生の側で、石館守三先生のプロミン発明の話、若き日の日野原先生が幣原喜重郎首相の肺炎を GHQ から分けてもらったペニシリンで直され、幣原首相がマッカーサーにお礼に行き、戦争放棄の話を出され、それが憲法 9 条になったというような話ができ、光栄でした。

25 日の講演会では、先生は、「わが喜び、我が希望」という題で話され、命はめいめいが持っている時間である、というような内容で、感銘を受けました。話し方は明瞭、ユーモアがあり、聞く人皆感動と力を頂きました。

暑さきびしき折から、お身体ご自愛のほど祈り申し上げます。 敬具

平成 22 年 7 月 26 日

山口周三

エンカウンターのご読者各位